

---

# リリカルと赤い弓兵(偽)

トモゾウ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

リリカルと赤い弓兵（偽）

### 【Nコード】

N2887BA

### 【作者名】

トモゾウ

### 【あらすじ】

まあ、テンプレどおりに死亡した。オリ主がテンプレ通りにチートもらって、これまたテンプレ通りにアニメの世界へなお話です。

注意！ 駄文です。作者のオナ小説です。

文句は受け付けません。

## プロローグ

ー主人公視点ー

どうもみなさん。突然ですが俺……。

一時間前に転生しました！

え？

頭おかしいんじゃないかって？

まあ、そうだよね、それが普通の反応だよね。

しかし、マジなんだよねコレ。

なんか俺、何でも作れる投影とか、全宝具真名解放可能にできるチート使用の体なんだぜ。

しかも顔とかエミヤだし……、口調もエミヤみたいだし……。

後、身体能力も……。 (遠く離れた鉄橋のボトルの数を地味に数えてた)

そんで現在は行く所がなくてさまよっています。

さてさて、どうしたものか……。

「マスター……大丈夫です。」

「そうですね！アルファアの言うとおりですよ！大丈夫ですよ！」

「でも、ニンフ先輩。お金がないです〜おなかもすきました〜。」

「  
バタ

「アストレアさん！？大丈夫！？」

「あらあら〜」

本当にどうしたものか・・・。

神から貰った従者、イカロス、ニンフ、アストレア、ソハラ、ミカ  
コの喋り声を聞きながら

公園のベンチで黄昏る。

ちなみに彼女達は俺が投影した普通の服を着てもらっている。

何故なら、かなり恥ずかしいコスプレ全開な格好だったからだ。

後、俺もギルガメッシュの普段着のような服に着替えた。

（オ리지の任意で赤い外装に変われます）

「うっうっ・・・」

「おや？」

何か泣き声のようなものが聞こえたのでその方向に顔を向ける。

すると、少し遠くはなれた、公園の隅で女の子が一人で泣いていた。

あの距離の女の子の泣き声が聞こえるって・・・。

まあ、いいや。

気分転換にもなるし人助けでもするか。

「こんにちは」

「ふえ？」

茶髪に、片方だけ結びを作ってる少女がこちらを見る。

「どうかしたのか？」

少女の前にしゃがみこみ質問をする。

「おとうさんがけがをしちゃって、おかあさんもおねえちゃんもいそがしいの。」

だから、なのはひとりなの」

「そうか・・・」

おいおい、迷子か何かと想像していたのにかなりハードな事情を抱えちゃってるよ

このお子様。

しかし、助けるときめたら最後までやるのが男だよね。

「わかった、君のお父さんは私が治そう」

「・・・ほんと？」

疑いの眼差しを向けながら少女が問う。

予想通りの態度をありがとう！しかし負けん！！

「ああ。それよりも名前を覚えてもらえないかね？何時までも君じゃあ

不便だ。」

「なのは・・・、たかまちなのは、なの。おにいさんは？」

「私か？私は・・・」

なんて名乗ろう？

前の名前？それともエミヤ シロウ？

こんな顔してるのだからシロウでいいか。

「シロウ。エミヤ シロウだ。」

「しろっおにいさん。ほんとうにおとうさんなおせる？」

「ああ、私は魔術師だからな・・・」

「まじゅつし？」

首をかしげる少女なのは。

5歳くらいだし、自分が魔術師と言っても大丈夫だろう。

「そうだ、だから安心してもう帰るといい。」

「うん！うそだったらおななししてもらおうの！！」

元気になったのか、少女は笑顔で帰っていった。

そして何故だろうか？最後の言葉で冷や汗が止まらない。

「マスター、人助けもいいのですが・・・。」

「ん？」

立ち上がると、イカロスに声を掛けられ振り向く。  
するとそこには……。

「デルタ！しっかりしなさい！！デルタ！！！」

「あゝ、大丈夫ですよニンフ先輩。ほら、川の方へ向こうにご馳走が……」

「その川、渡っちゃダメよアストレヤさん！！」

「ニンフちゃん。あなたの能力で銀行からお金を……」

カオスしかなかった。

なんですか……。

## プロローグ（後書き）

感想・評価などお待ちしております。



## 1話 住所決まりました。

ーシロウ視点ー

少女と別れた後、俺とニンフは少女 高町 なのはの父親居場所を遠く離れた

病院のコンピュータをハッキングして探す事にして、他のメンバーは住居もしくは野宿が出来る所を探してもらっている。

最悪、俺以外は雨風が凌げる所に行ってもらって俺はそこら辺の土管なんかに……。

「マスター、発見しました。病院の個人データと市役所の住所と子供が同姓同名な事から公園の少女の父親に間違いないでしょう。」

「……そうか」

今晚の事を考えていると、ニンフが父親の入院している病院を発見したようだ。

それにしても高性能な従者だ、正直俺のチートいらなかったんじゃない？

そんな事を考えながら、ニンフに病院へと案内してもらおう事に……。

しばらくして……

あれから、何事もなく病院に潜入成功した俺とニンフは、なのはちゃんの父親の

病室に到着した。

「いやはや、まさか透明化も出来るなんて……。  
そう、何事もなく病室に辿り着けたのは、ニンフが透明化の能力で自分だけではなく俺も透明にしてくれたおかげだ。  
本当に凄いね……。」

「さ、マスター。今のうちですよ」

「ああ」

ニンフが笑顔で言ってくれるが、正直俺がやらなくてもいいのでは？  
と思ってしまう。

しかし、約束をしたのは俺なので、頑張って治療する事に……。

「トレース・オン……」

2時間後

なのはちゃん父親の治療を終えた、俺達はすぐに姿を消し外に出た。

「マスター。今、ミカコからの連絡で、住む場所が決まったみたいですよ」

本当にハイスペックな従者だ。

野宿するところではなく、住居を見つけるなんて……。

もしかして俺って……ヒモ？

「さあ！マスター早く帰りましょう！晩御飯も出来ているみたいですよ！」

「ああ」

笑顔で走り出すニンフの後を追いつつ、ヒモにならないように仕事を  
を見つけようと  
心にきめた。

ーソハラ視点ー

女の子のお父さんを治すため、病院を探しに行った  
マスターとニンフさん。

二人を見送った後、マスターに頼まれた住居、もしくは野宿できる  
場所を探す  
ことにしたんだけど・・・。

「待つてくたさいミカコさん！さすがに銀行にハッキングするのは  
まずいですって！！」

「あらー？でも、これなら確実にお金を落とせるわよ。  
心配しなくても大丈夫。証拠は残さないから」

「そういう問題じゃありません！！」

何この人！？マスターが居なくなった瞬間におかしなおかしなことを  
言ってくるんだけど！！

「じゃあ、何か他に案があるの？」

「……………」

くくく

「おなか……すきました……」

アストレヤさんはお腹をすかせ使い物にならないし無理。

私も案が無い。

でも！！

「イカロスさん、他になにか方法ない？」

困った時のイカロスさん頼み！

情けないけど彼女なら、イカロスさんなら何か方法を思いついてくれるはず！

何故なら彼女は私達の誰よりもハイスペックな従者であるのだから！！

私がイカロスさんの方に振り向いた時。

いつの間にも移動したのか、ミカコさんがイカロスさんの耳元で何かを喋り、

それが終わったと思ったその時……。

……………

……………

……………

……………

……………

……………

……………

・

「大量ね〜〜〜」

輝かしい笑顔で、歩くミカコさん。

すみません。マスター、私は弱い子です。

この後、私達。いや、ミカコさんは高級マンションの持ち主や関係者をおど（ギロ）

ひっ！！

まあ、格安で部屋を借りる事が出来ました。

手段は聞かないで……。

「マスターには、内緒よ。もし言ったら……」

イヤーーーー！！！！！！

おまけ

「マスター、褒めてくれるかな……」

この後、シロウに褒めてもらい笑顔になったイカロスであった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2887ba/>

---

リリカルと赤い弓兵(偽)

2012年1月14日08時48分発行